

国際力動的心理療学会第26回大会  
「臨床研究発表」要項

研究形態：「事例報告」「事例研究」「リサーチ」

発表形式：「口頭発表」「ポスター発表」

以下の形式で発表要旨を作成してください。

1. 臨床研究発表分野について

1) 「事例報告」

事例報告（Case Report）とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、あるいは、危機介入や治療過程における力動的な理解・分析にもとづいた介入（看護領域における看護面接、治療面接を含む）（以下、「力動的介入」とする）による事例の臨床検討報告を指す。報告の主な目的は、クライアントおよび患者の内的体験を、その事実資料に基づき可能な限り再構成することである。以下の構成でまとめられ、臨床蓄積事例として価値の認められるもの、あるいはその領域の今後の研究展開に対する促進的意義の認められるもの。事例報告の構造は以下のとおりである。

①問題（はじめに、序、問題の所在と背景）

事例性の同定とその特異性あるいは、類似性の確認および検討課題を特定化し、その背景、今日共有されている理論的理解や先行研究の知見もレビューできると良い。検討

課題は、以下の要点を、心理療法および力動的介入過程の重要な変数とした事例全体の理解の追及と共に特定化すること。

- i) 病理、心理力動、人格機能・構造、人格発達
- ii) 家族、友人、集団、環境社会関係、およびセラピストとの関係
- iii) 心理療法／力動的介入理論、治療過程、治療技法、セルフケア看護技法  
教育対話手法

## ②目的

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

- i) 何をどこまで検討しようとするのか
- ii) それをどのように検討しようとするのか
- iii) そのための理論や仮説はどのようなものか

## ③事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。

- i) 事例性：提示事例の選定理由、資料性を示す条件の確認
- ii) 資料内容：目的によって必要なもののみの構成提示

例) 主訴、臨床像、治療理論／治療仮説／治療計画、治療構成（構造、契約等）／

治療技法、治療展開過程（臨床事実）、治療的成果（臨床的变化の事実）

## ④分析、考察

目的を軸に、資料の厳密な分析と考察を展開し、決して資料にフィードバックできない根拠のない考察に及ばないこと。

## ⑤結論と今後の課題／展望

結論は、事例資料の検討により明らかになったことと、残された問題の両側面を出来るだけ簡潔にまとめる。問題として、掲げたテーマについての研究展開の展望を書く。

## 2)「事例研究」

事例研究（Case Study）とは、心理・看護・教育・福祉などの臨床領域における心理療法、看護手法、教育手法、あるいは危機介入や治療過程における力動的介入による事例を用いて、臨床的、学術的な研究蓄積に貢献するものを指す。事例研究の基本構造は、以下のとおりである。

### ①問題（はじめに、序、問題の所在と背景）

研究課題の現段階までの先行研究のレビューに基づくテーマの設定と、どこまで明らかにするか課題の同定を行う。研究テーマは、大きく3つの領域に分かれる。

- i) 病理、心理力動、人格構造・機能、人格発達
- ii) 家族、集団、社会心理の構造とメカニズム
- iii) 心理療法、教育手法、看護手法あるいは力動的介入についての理論・過程・技法

### ②目的および研究意義

特定化した検討課題を軸に、以下の諸点を包含し、構成的に簡潔にまとめる。

- i) 何をどこまで明らかにしようとするのか
- ii) それをどのように明らかにしようとするのか

iii) そのための基盤理論や、新たな仮説構成はどのようなものなのか

iv) 研究意義と展望はどういうものか

### ③方法、手順

研究目的を達成するための方法と手順を明示する。

### ④事例資料

目的手順にそって、提示資料を体系的に構成して示す。事例資料内容は、事例報告とは異なり、目的によって必要なもののみ構成提示することが求められる。

### ⑤分析、考察

理論および仮説構成をふまえ、研究目的を軸に資料の厳密な分析と考察を展開すること。

### ⑥結論と今後の課題／展望

結論は、明らかになったことと残された問題の両側面をできるだけ簡潔にまとめ、それに基づいた研究の次のステップとさらなる展開の展望を整理する。

## 3) 「リサーチ」

ここでの「リサーチ」とは、心理療法、力動的介入、精神分析的な主題に関する実証、調査研究を指す。追試、探索的研究、効果研究、質問紙研究を含め、研究蓄積に貢献するもの。

「リサーチ」の基本構造は、大きくは、上記2分野と重なるために、簡単に示す。①

問題 ②目的 ③方法・手順 ④理論/概念枠組みおよび作業仮説 ⑤結果 ⑥考察

⑦結論と今後の課題

## 2. 発表形式について

1) 発表形式には、「口頭発表」と「ポスター発表」の2種があります。

2) 口頭発表

- ・大会2日目（10:45-12:15）にご発表いただきます。
- ・当日の配布資料はご自身で準備していただきます。回収資料とし、改修後の資料はご自身でお持ち帰りください。
- ・パワーポイントをご使用いただけます。PCは会場にあるものをご使用いただきます。

3) ポスター発表

- ・ポスターは、大会期間中に随時掲示されます。
- ・大会2日目（12:15-13:45）に、ポスター前で質疑応答、ディスカッションを行います。時間は30分とし、12:30-13:00、13:00-13:30いずれかの時間を決め、大会事務局にお伝えください。
- ・ポスターのサイズは横110センチ×縦220センチとし、発表者自身で準備し、当日ご自身で掲示を行なってください。

### 3. 臨床研究発表の留意点

#### 1) 事例資料の守秘性

事例資料の入手法および守秘性に関する処置を明確にしてください。また、事例の実施された機関における研究発表規則（倫理審査委員会の認定等）と法律に則って行われたという条件の下で受理いたします。

#### 2) 研究助成金等

研究助成金等による臨床研究発表は、研究助成金（研究助成番号や）や、研究に際し支援・協力を受けた団体・個人についても、必要に応じて「付記」として記入ください。

企業・法人組織等からの補助や援助（金額は問いません）を受けている場合、または、応募演題に関係する企業の被雇用者が共同研究者に含まれる場合は、その事実を明記してください（利益相反の公開義務）。なお、公的な研究助成金等（科研費等）は利益相反の申告事項には含まれませんが、助成がある場合には、発表時に公開することとします。

#### 3) 共同発表者

共同発表者がいる場合は、発表要旨をご提出される前に、内容の確認を行ってください。

### 4. 発表要旨の作成

- 1) 要旨は発表言語（日本語もしくは英語）で作成してください。日本語で作成した場合、発表タイトル、発表者、所属については英語でも記載してください。
- 2) 日本語の場合は2000字以内、英語の場合は500語以内で作成してください。
- 3) 要旨には、引用文献、画像、表、図、グラフや付録を載せないでください。
- 4) 前述の募集テーマを、キーワード選択の際の参考にしてください。
- 5) 要旨は、前述の3分野の研究構造にそって簡潔にまとめてください。「結論は、当日に示す」等の曖昧な表現は、避けてください。

## 5. 要旨の提出

テンプレートに沿ってご準備いただいた要旨を下記の大会事務局のアドレスにメールで添付してお送りください。お送りいただく際には、必ず添付書類にパスワードをかけて送信をお願い致します。

大会事務局アドレス：office26@26annual.iadp.info

### 5. 提出スケジュール

演題登録用紙提出締切            2022年5月17日

発表要旨提出締切                2022年5月24日

要旨最終修正期限

2022年6月14日

6. 要旨の受理と発表：

- 1) 大会査読委員会が事例要旨を精査し、1ヶ月以内に発表者に結果を通知します。
- 2) 受理された事例要旨は、当日配布される抄録集に掲載されます。なお、受理された場合は、2022年6月14日まで修正が可能です。修正をされたい方は、期日までに大会事務局のアドレスに修正版をメールに添付してお送り下さい。